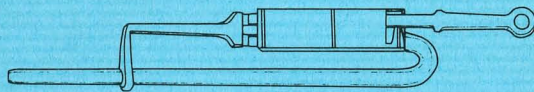


昭和61
年 度 平城宮跡発掘調査部
発掘調査概報



1987

奈良国立文化財研究所

凡 例

1. 本書は、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部が、昭和61年度に実施した平城宮跡および平城京内遺跡の発掘調査の概要報告である。各調査報告の執筆は、各現場の発掘担当者が行なった。
2. 第174—12次調査については本書に概要を収録したが、下記のように別途報告書が刊行されているので、詳細はそれによらねたい。

『平城京左京四条二坊一坪』（1987年3月、奈良国立文化財研究所）

3. 発掘遺構図に付した座標値は、平城宮内遺構の場合が、平城方位に基ずく座標値であり、平城京内遺構の場合は、国土方眼第Ⅵ座標系による座標値である。平城方位とは、内裏内郭をめぐる築地回廊北面の北雨落溝の方位に基ずくもので、国土方眼に対して北で $0^{\circ} 7' 47''$ 西偏する。宮内に設けられた基準点のうちNo.7（推定第二次大極殿基壇上）を（0，0）とし、東西南北をEWSNとして正数（単位m）で示す。なおNo.7は国土座標では $X = -145,412.55$ 、 $Y = -18,322.19$ である。高さはすべて海拔高で示す。
4. 遺構図には、遺構ごとに一連の番号を付け、番号の前に、SA（築地・塀）、SB（建物）、SC（廊）、SD（溝・濠）、SE（井戸）、SF（道路）、SK（土壙）、SS（足場）、SX（その他）などの分類記号を付した。なお遺構番号のなかには仮番号で示したものを含んでいる。
5. 平城宮出土軒瓦・土器の編年は次のように表わす（カッコ内は西暦による略年代）。平城京内についてもこれを準用した。

軒瓦；平城宮出土軒瓦編年Ⅰ期（708～721）、同Ⅱ期（721～745）

同Ⅲ期（745～757）、同Ⅳ期（757～770）、同Ⅴ期（770～784）

土器；平城宮土器Ⅰ（710）、同Ⅱ（725）、同Ⅲ（750）、同Ⅳ（765）、同Ⅴ（780）、同Ⅵ（800）、同Ⅶ（825）

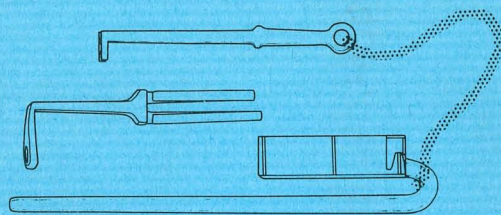
6. 本文未収録の調査については、巻末「その他の発掘調査一覧」を参照されたい。

目 次

I 平城宮の調査		
1	推定第二次朝堂院地区の調査	第173次…………… 3
2	内裏東方東大溝地区の調査	第172次…………… 11
3	推定第一次朝堂院南門東側の調査	第176次…………… 27
4	内裏北外郭北方の調査	第174—8次…………… 34
5	佐紀池南辺の調査	第177次…………… 35
6	馬寮地区北方の調査	第174—20次…………… 42
7	北面大垣の調査	第174—16次…………… 43
8	平城宮北方遺跡の調査 I	第174—2次…………… 44
9	平城宮北方遺跡の調査 II	第174—5次…………… 49
10	平城宮北方遺跡の調査 III	第174—6次…………… 51
II 平城京の調査		
1	左京一条二坊十四坪の調査	第174—11次…………… 55
2	左京三条一坊一・八坪の調査	第180次…………… 56
3	左京三条二坊三・四坪の調査	第174—10次…………… 58
4	左京三条二坊七坪の調査	第178次…………… 61
5	左京四条二坊一坪の調査	第174—12次…………… 72
6	右京一条二坊三坪の調査	第174—24次…………… 74
7	右京八条一坊十四坪の調査	第179次…………… 75
8	頭塔の調査	第181次…………… 77
III 平城京内寺院の調査		
1	法華寺旧境内の調査 I	第174—1次…………… 82
2	法華寺旧境内の調査 II	第174—22次…………… 83
3	興福寺旧境内の調査	第174—7次…………… 88
4	薬師寺旧境内の調査	第174—13次…………… 89
5	西大寺境内の調査	(次数外)…………… 90
その他の発掘調査一覧…………… 96		
写真 1 (第173次調査) 2 (第172次調査)		
3・4 (第181次調査)		

鉄製海老錠（表紙カット）

平城宮内裏東方東大溝SD2700
（第172次調査）出土品で、全長
21.1cm。牡金具・牝金具・匙の3
点がそろって出土したのはごく稀
な例に属する。裏表紙は正倉院の
遺例を参考に作成した分解図。



昭和61
年 度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報

1987.6

奈良国立文化財研究所